

中学期の全身悪化と長期リバウンドを経て大学生活を送る青年期アトピーの経過 (21 歳女性)

症例 ID：001-20-IY2 | 記録日：2013 年 1 月 22 日

1. 診断・治療前経過

幼少期から皮膚が弱く、冬を中心に全身へ湿疹が出るたびステロイド外用薬を使用していました。

中学 3 年時に全身へ強い湿疹が広がり、高校進学後に松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期から中学期まで、症状が悪い時にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	幼少期から高校進学前まで断続的に使用しました。
中止時期	松本医院で治療を始めた時に中止しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

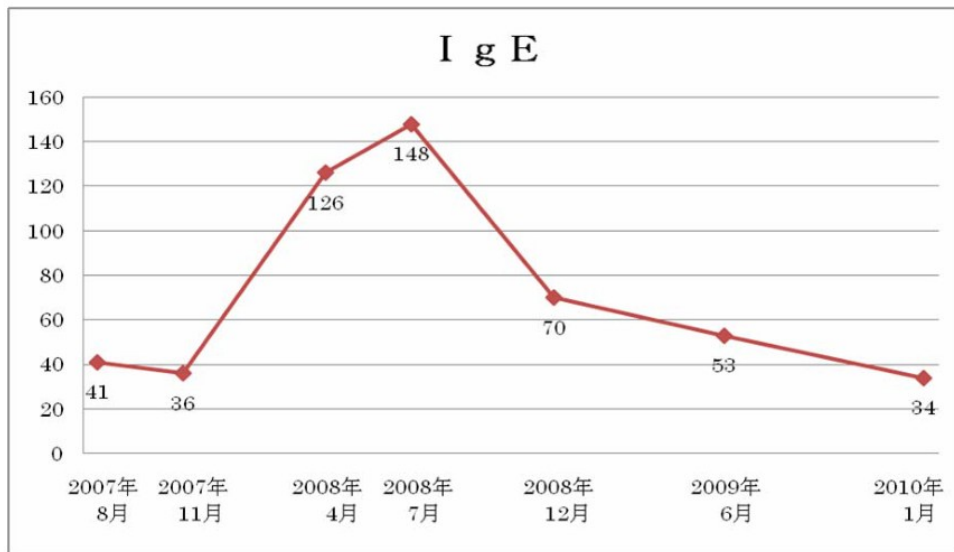
時期	治療開始から	経過
幼少期～中学期	来院前	乾燥期を中心に全身へ湿疹が出て、外用薬を繰り返し使用しました。
中学 3 年時	来院前ピーク	全身に蚊に刺されたような湿疹が急に広がりました。
高校進学後	治療開始	煎じ薬、漢方風呂、外用処置を始めました。
治療開始約 1 週間	リバウンド期	かゆみが倍増し、1 か月以上まともに眠れず、全身の皮がめくれました。
治療継続中	経過中	発熱、寒気、体液、痛みを伴う症状を複数回経験しました。
約 4 年後	経過後	皮膚状態が安定し、掻いてもすぐ湿疹が出なくなりました。
21 歳時点	生活変化	ステロイドを使わず、長期海外旅行や友人とのプールを含む大学生活を送っています。

4. ピーク時期

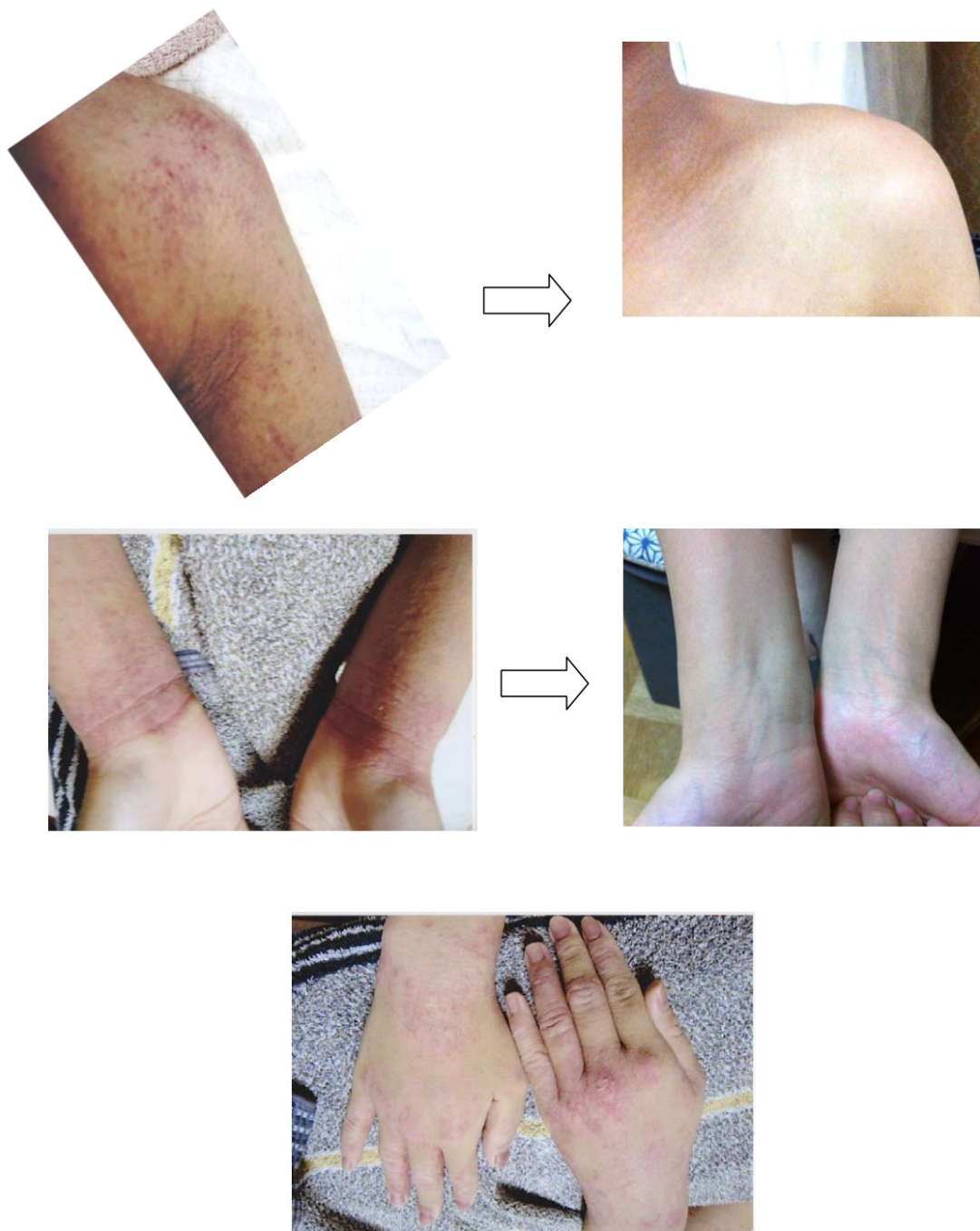
ピークは、治療開始後にかゆみが倍増し、1 か月以上眠れず、全身の落屑と痛み、発熱を伴った時期です。

5. 困りごと

- 夜間に眠れず、衣類のわずかな刺激でも痛みを感じました。
- 長期間にわたり皮膚の色調変化や乾燥が残りました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

IgE 値の推移。



治療経過中の皮膚状態の記録。

7. 経過のまとめ

治療開始から約4年後には皮膚状態が安定し、掻いてもすぐに湿疹が出なくなりました。

21歳時点では、ステロイドを使わず、長期海外旅行や友人とのプールを含む大学生活を支障なく送っています。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。